

「ふたたびの川根高校」



川根高等学校 教頭 林邦彦

「先生、びつくりしました。川高なんですね。去年のクラス会で話していたことが本当になりましたね。」教職員の人事異動の新聞を見た徳山在住のY君から、電話をもらいました。

昭和54年から5年間、教員生活の第一歩を川根高校からスタートした私にとって、この4月は特別なものになりました。

Y君は私が最初に担任を持ったクラスの生徒。地元徳山で自営業を営んでいることもあって、卒業後もクラス会の代表幹事として仲間をうまくまとめてくれています。昨年、久しぶりに開催したクラス会の席で「川高に戻れると嬉しいね」と話していたのです。

3月末、川根高校での打ち合わせの前にも先に立ち寄ったのはY君の家。久しぶりにお会いしたお父さんの昔と変わらないダンディーないでたちをなつかしく思いました。再会できたことに感謝し、川高に向かいました。正門付近で会った男子生徒は私を見つけるとその場に一瞬立ち止まって、「おはようございます」声の大きさといい、張りといい、お辞儀の仕方の礼儀正しさといい、私もその場に立ち止まって、彼と同様に、「おはようございます」と返しました。

その後も会う生徒一人一人が同じようにさわやかにあいさつしてくれました。前任校、静岡城北高校の生徒も比較的よくあいさつができましたが、川高生のそれはあいさつされた相手を引き込むだけのものがありました。体格の非常にいい男子生徒に、「いい体格をしているね。何部だい」と尋ねると、「ありがとうございます。柔道部です」と今度もしっかりと返事が返ってきました。

打ち合わせまで少し時間があつたので、学

校の周囲をぐるっと一周しました。旧徳山小学校の跡地は防災コミュニティセンターに変わり、あかいしの郷や町営のサッカーグラウンドができ、特に、学校の東側が大きく変わったことに気づきました。街路も整備され、しだれ桜がその開花を待っていました。

野球部の生徒が一人練習をしていたので声をかけました。「一人で練習かい」「午後から、通院するので、今やっています」「部員は何人」「13人です」「もう少し増えるといいね」「新入生に期待しています。」

こんな会話をしていると、もう一人の部員がやってきて、2人でトスバッティングを始めました。ひたむきに取り組んでいる姿に目を細めながら、「頑張って」とひと声をかけて、その場を離れました。

30年程前、私が赴任する前年には、創設間もない野球部がシールド校を破るなど大活躍し、川根地区が大いに盛り上がりつつあったことを彼らの姿を見ながら思い出しました。

4月に入り、3月末に来た時にはまだつぼみだった桜が一気に咲き揃いました。入学式の頃には満開を迎え、一年中で川根が一番華やぐ季節となりました。

晴れて川根高校の一員となった今、新任当時のフレッシュな自分と重ね合わせながらも一度原点に戻ろうと満開の桜の下で誓いました。ともに仕事をするようになった本校職員は非常に前向きで、生徒のために全力投球しています。何より「川高生」が大好きな先生ばかりです。地域の皆さんに支えられ、「中高一貫教育」というシステムの中で、これからも「川高に入学して良かった。入学させて良かった」と言っていただけのように頑張りたいと思っています。

今月の裏表紙写真：徳山の桜まつり会場にて 4月6日